

寄稿工ツセイ

## 進化に伴う二枚舌の変化

北村 豊

「二枚舌」という言葉  
葉を聞くと、ほとんどの  
人はマイナスのイメージ  
を持つのではない  
だろうか？

しかし、ホンモノの  
二枚舌を持つ動物が現  
在も生き続けているこ  
とについてはほとんど

の人には知られていな  
い。

ここで述べる二枚舌  
とは、舌の下にあり解  
剖学では「下舌」と呼  
ばれる器官であり、メ

ガネザル、キツネザル、  
そしてスローロリスな  
どの原始的なサルが持  
っている。学生時代の

ヒトの解剖学でも学ば  
なかった下舌について  
書籍で知ったのは、三  
十年位も前であろうか

。もし、四十数年以  
前に下舌の存在を私が  
知っていたなら、当時  
は青年海外協力隊で三  
年間もマレーシアのジ  
ヤングルの病院にい  
て、しかも高床式の官  
舎で先住民から貰い受  
けたスローロリスとル

ームシェアしていたの  
で、人一倍好奇心が旺  
盛な私ならまちがいな  
く下舌の存在を確認し  
ていたに違いない。

スローロリスは、そ  
の名のとおり、動きが  
とてもゆっくりで性格  
の穏やかな夜行性のサ  
ルなのだが、私が差し  
出す好物のバッタ等を  
捕まえる時は、信じら  
れない早さで両手を動

かせるのには驚いた。  
スローとは真逆のその  
行動を観察して、「や  
れば出来るじゃない  
！」とつい誉めてあげ  
たくなったものであ  
る。

顔は大きな目がキラ  
キラして愛らしく、初  
めて見ると、ホモ・サ  
ピエンスの遠縁にあた  
るとはとても思えない  
のだが、指には複雑な  
溝の指紋がちゃんとあ  
り、墨汁を塗って私が

採取した指紋を観察で  
きた時には感動を覚え  
たものである。  
進化と退化は、時と  
して対義語として考え  
られることも多いが、  
動物においては、「進

化には退化が伴う」と  
考えられている。

それでは原始的なサ  
ルが持っている二枚  
舌、いや下舌は私達の  
口腔の中から消え去っ  
てしまったのだろうか  
？

いや、しっかりと痕  
跡器官として舌下面に  
残っていて、「采状ヒ  
ダ」と呼ばれ、歯医者  
なら学生時代に必ず習  
っているものである。

これが「下舌のなご  
り」であり、采状ヒダ  
は誕生直後までは目立  
つが、その後は縮小  
し、退化器官の常とし  
て個体変異が非常に大  
きく、成人ではさまざ  
まな退化段階がみられ

るといふ。日本人では  
約四人に一人は采状ヒ  
ダが欠損するのに対し  
て、二十人に一人は逆  
に顕著だという報告も  
ある。

私には残念ながらご  
く小範囲にしか采状ヒ  
ダは存在しないが、二  
枚舌の使い手として有  
名な国会議員？はさぞ  
立派な采状ヒダも持  
ち、それで、采配を振  
っている“のかもしれない。

読者の方々も、手鏡  
で采状ヒダの有無を確  
認されてはいかがだろ  
うか？

（信州口腔外科イン  
プラントセンター所長  
上高井郡小布施町）

